

## 第 4 回

太宰府市立学校給食改善研究委員会

## 議事録

太宰府市教育委員会

## 第4回太宰府市立学校給食改善研究委員会 議事録

- 1 日 時 平成28年5月12日(木) 午後6時～午後7時20分
- 2 場 所 太宰府市役所 4階 大会議室
- 3 出席者 【委員】  
大石委員、百武委員、椎葉委員、石内委員  
古田委員、岡委員、大谷委員  
【事務局】  
学校教育課長森木、義務教育係長鳥飼、  
学校教育課主事朝川、学校教育課栄養士梅田  
【オブザーバー】  
教育部理事江口
- 4 傍聴者 3名
- 5 議 事 1. 委員長あいさつ  
2. 審議  
(1) アンケート結果(一般市民を含む)について  
3. その他

### 6 審議内容

(事務局 鳥飼) 皆様お揃いですが、本日中島委員がお仕事のご都合により欠席ということでご連絡がっておりますので、よろしくお願ひします。

(大石委員長) それでは、第4回太宰府市立学校給食改善研究委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日の審議ですが、3月に引き続きまして、アンケートの結果が一般市民のところはまとまって参りましたので、委員の皆様方にはあらかじめアンケートの結果が送付されているかと思ひますけれども、お目通しいただいた所でまたご意見等伺いながら進めて参りたいと思ひております。本

日もどうぞよろしくお願いいいたします。

では、まず審議の1番ですけれども、アンケート結果（一般市民中心に）についてということで、概要を事務局からご説明いただきたいと思います。

（事務局 鳥飼） それでは、事務局の方から前回の会議においてご意見をいただきました一般市民の皆様を除くアンケート結果と合わせまして、今年の3月に実施いたしました一般市民の方に対する市民意識調査、本日はダイジェスト版を中心に進めさせていただきたいと思っております。その結果と平成16年度に実施しましたアンケート結果との比較によりまして、調査対象者の意識の経年変化を読み解いていただきまして、気づかれた点やご意見をいただきたいと思いますと考えております。また、このアンケート結果を踏まえまして、委員の皆様それぞれの立場から考えておられる中学校給食への思いや、ご意見も併せて出していただきたいと思いますと考えております。それでは、皆様には事前に資料をお送りさせていただいておりますので、ご一読いただいているかと思いますが、アンケート調査結果の概略を一般市民の方の回答を中心にご説明させていただきたいと思います。

それでは、ダイジェスト版の1ページ目をお開き下さい。Ⅰ「調査概要」についてでございますけれども、2「調査対象とサンプル数」についてご説明申し上げます。今回集計が終わりました一般市民の方への配布数は2000名分、有効回収数が1124名分でしたので、有効回収率が56.2%となりました。前回のアンケート調査時の一般市民の回収率が42.5%でしたので、今回のアンケート調査に対する関心の高さがうかがえるかと思っております。トータルでは配布数が7928名分、有効回収数が5903名分でしたので有効回収率は74.5%となっております。ちなみに前回調査時は72.1%でしたので若干高くなっているという状況です。

続きまして、少し飛びますが4ページをお開き下さい。Ⅱ「対象者属性」の6「市民」の項目についてご説明させていただきます。この項目で注目される点は、保護者の回答と同様、男性と比較して女性の方が回答率が高いというところでありまして。一般市民の回答は、女性が66.2%になりまして、回答者の実に3分の2が女性となっております。また、年代別では回答者の全体の4割の方が60歳以上ということも注目される点だと考えられます。

続きまして、また少し飛びますが11ページをお開き下さい。Ⅲ「調査結果」の6「弁当作りに対する考え方」のe「市民」の項目でございます。この項目では、「弁当は、家庭の味だから、できれば作ってほしい」と答えられた方が前回は36%でしたが、今回は17.8%に下がっておりまして、その分「弁当を毎日作るのは大変だから給食やランチサービスなど、毎日作らなく

ても済む仕組みがあった方がよい」と答えられた方が増加しておりまして、78.8%になっております。前回の調査と比較しまして、18ポイント増加しております。

続きまして、また飛びまして19ページをお開き下さい。10「給食に対する希望」の(1)「給食希望状況」のf「市民」の項目でございます。こちらでは、給食を実施した方がよいと答えられた方が前回の74%から今回は69.6%にわずかながら減少しております。一方では、給食を実施しない方がよいと答えられた方が前回調査では14.4%でしたが、今回6.2%に減少しております。これは今回の回答項目に新たに追加されました「今のままでよい」が多少影響しているのではないかと考えられます。

続きまして、また飛びますが22ページをお願いいたします。こちらの10「給食に対する希望」の(2)「給食に賛成する理由」のf「市民」の方の項目でございます。前回の調査と今回の調査を比較しましても、賛成する理由の傾向や割合が大きく変化した項目はありませんでした。強いて挙げるなら、「皆と同じものが食べられると思うから」という回答が14ポイント増加しているところだと思います。

続きまして、25ページをお願いいたします。こちらも10「給食に対する希望」の(3)「給食に反対する理由」のf「市民」の方の項目でございます。今回の調査では、最も回答数が多かったのが「アレルギー体質の人もいると思うから」という回答で、前回の調査では3番目に多い回答でした。これは、アレルギー体質の子が増加しているという認識が広まっているという現れだと考えられます。また、前回の調査と今回の調査を比較しまして大きく変わった点は、「弁当を作ることで親子の交流ができると思うから」が14.5ポイント、「弁当は愛情表現の一つであると思うから」が21.5ポイント、「弁当作りは親の責任であると思うから」が11.8ポイントそれぞれ前回の調査から減少している点でございます。この点に注目しますと、前回の調査から11年経過しておりますが、親の子に対する考え方の変化の一面がうかがうことができるのではないかと考えられます。

続きまして、26ページをお願いいたします。12「学校給食やランチサービスで重要と思うこと」の項目ですけれども、小中学生の保護者、中学校教師、一般市民の回答数の多さを比較したものでございますが、全調査対象での回答の多さの順番が一致しておりました。これを見ますと、年代や性別、立場に関係なく学校給食やランチサービスで何を重要視しているのかということが分かると思います。

続きまして、27ページをお願いいたします。13「寄せられた意見・要望」ですが、自由記述で頂いているご意見を大まかに要約いたしますと、子

どもたちは、自宅からのお弁当や選択制の昼食を利用することによりできるだけ好きなものを昼食として食べたいと考えているということが推察されます。対しまして、大人は子供たちには普段から栄養バランスが取れた食事を取らせてあげたいとの思いや、弁当作りの負担感などから給食を実施してほしいと考えているということが読み取れると思います。

以上ではございますが、簡単ですけれどもアンケート調査の概要の説明をさせていただきます。以上でございます。

（大石委員長）前回に引き続き、アンケートの集計をというところなのですが、11年経ちましたが傾向として同じようなところもありますけれども、今のような所をご覧になって委員の皆様からご意見はございますでしょうか。市民の方々の回答がかなり多かったということで学校給食に対する関心が高かったということですか、中でも全体の6、7割が女性の回答であり、40%ほどが60歳以上だったということですが。

（百武副委員長）60歳以上ということは、祖父母がということになるのですかね。

（大石委員長）年代的にはそれくらいですかね。

（事務局 鳥飼）そうですね。小中学生から見ますと祖父母の方になりますね。

（大谷委員）いいですか。今のに関連して、配布時の年齢構成はある程度年代ごとに分けて、均等に配布された上で60歳以上の方が多かったという結果になっているのですかね。

（事務局 森木）そうですね。均等に20代から70代までの男女に配布しておりまして、結果として60歳以上が多かったということになっております。

（岡委員）一般市民の回答は前回は40数%で今回は56%ということですよ。回答率が上がったということのはっきり言えると思うのですが、56%という数字で関心が高いと言えるのかどうかというのは、数字の解釈がいろいろあると思うのですが。

(事務局 鳥飼) そうですね。これは調査会社に委託しております、その調査会社の方とお話をしている中で、一般市民の方をランダムに抽出しまして、そのアンケートにおいて 50% 超えましたとお伺いしましたので、そういう意味で高かったということでございます。

(岡委員) 分かりました。

(大石委員長) それ以外で、何か事務局の説明や事前にご覧いただいた所でご質問やご意見はございませんでしょうか。

(岡委員) 1点質問よろしいですか。11ページなのですが、平成16年の60.8%のところは当時まだランチサービスは無いのですよね。案だけがあったのですか。

(事務局 森木) ランチサービスはまだ実施しておりませんでした。実施する前のものです。

(岡委員) そうしたら、この60.8%というのはどういう回答になるのですかね。順番に整理しますと、左側の濃い青の部分、平成16年の36%が平成27年には17.8%、というのは項目としてできれば作ってほしいという回答ですよね。ところが、16年度はその隣ですが、まだランチが無いので60.8%というのは項目が違うのではないかと思うのですが。逆に言えば、16年の60.8%の内訳というのは、内容が違ってくるということになりますよね。ですから、単純に60.8%と78.8%を比較するのは誤解が生じる可能性があると思います。

(大谷委員) 今のところよろしいですか。私がこの部分で理解をしたのは、「毎日作らなくても済む仕組みがあった方がよい」ということで平成16年に回答を得たのではないかなということで、今回は給食以外にランチサービスが実施されていますから、事例として「給食やランチサービスなど」という表現で入れたのではないかなと理解をしました。

(大石委員長) 私もそういったところではないのかなと思います。ランチサービスという仕組みは実施されていなかったのかもしれないですが、給食かそれに代わるような仕組みという意味でのご回答だったのかなと思います。

(岡委員) 事務局に確認していただいたらすぐ分かると思います。今のような解釈でいいなら、それでいいと思います。

(事務局 森木) 確認いたします。

(事務局 鳥飼) お答えいたします。前回の調査では、「あなたの考えに近いものと思われるものに丸を付けてください」ということで、回答項目が2項目ありまして、1は「弁当は、家庭の味だから、できれば作ってほしい」という回答と、もう一つが「弁当を毎日作るのは大変だから、給食の方がよい」というものでした。それで、今回の回答項目にランチサービスという文言を組み合わせてこの回答になったということでございます。

(岡委員) 分かりました。

(大石委員長) それ以外のところでいかがでしょうか。

(百武副委員長) すみません。17ページの10「給食に対する希望」の(1)「給食希望状況」のa「中学生」のところで、平成27年の「実施した方がよい」が26.3%で、26ページの11「希望する中学校での昼食方法」で「全員給食方式」を希望している中学生が22%とありますが、その数字の差というのはどこから来るのですか。同じ項目と内容という理解をしてもいいのでしょうか。

(事務局 鳥飼) 質問の項目で、まず17ページですが、「あなたは全員が給食を摂ることについてどう思いますか」という問いに対しまして、「実施した方がよい」「実施しない方がよい」「どちらでもよい」という回答になっております。そして、26ページですが、こちらの問いにつきましては「中学校で給食を実施する場合、実施する方法として望ましいと思われるものに丸を付けてください」ということで、回答といたしまして「全員が給食とする全員給食方式」、「持参弁当またはパン等の購入またはランチサービスを選択できる選択方式」それから「どちらでもよい」といった回答の数値をそのまま集約したものですので、例えば「実施した方がよい」と回答したお子さんがもしかしたら次の回答では「選択方式」を選んでいるということがあったのかもしれない。ですので、一致するかどうかというのはまた別ですね。

(百武副委員長) 別項目だったのですね。ありがとうございます。

(大石委員長) 他に何かお気づきの点やご意見、ご質問はございませんか。

(百武副委員長) この17ページの「給食を実施した方がよい」という中学生は26.3%、保護者は79.4%と親と中学生の思いの差がものすごく出てきていますよね。

(大石委員長) それは、小学生も同じような感じですよ。子どもさんが感じていることと親御さんが考えられることには隔たりがあるのかなと思います。

アンケートについての市民の回答のまとめの事に関しましては、だいたいそういったことでよろしいですか。そうしますと、百武先生が言われたように児童や生徒の給食実施への思いと保護者の思いが幾分違うというところが実態としてあるようで、アンケートを11年ぶりにやってみてこういった実態がでてきたわけですが、委員会としましては今後それでは中学生の昼食をどのような方法でといったところに話が進んでいくかと思います。委員の先生方それぞれにいろんなお立場でおられますので、こういったことを考えているというようなことがございましたら、伺っていきたいと思っておりますが。岡先生は、何かございますか。

(岡委員) では、進行意見に関していいですか。レジュメの方では、今は審議になっていきますよね。アンケート結果の審議ということで、データとしてはこれでいいでしょうと確認できたわけですよ。あとは、何を審議するのかというテーマが無いと発言のしようが無くなりますし、よければ今日の会議はこういうことを審議して、次はこうして最後はこうするというような今後の見通しまで言っていただいたら、今日何をやる必要があるというのが分かってくると思います。

(大石委員長) 事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局 鳥飼) はい。本日は、皆様からこのアンケート結果をご覧になられての率直なご感想と、市民の皆様が現在中学校給食に対してどう考えておられるのかと感じられると思いますので、そのご感想を率直に述べていただくことと、委員長が仰っていただきましたけれども、それぞれのお立場で中学校給食に対する思いや考え方について自由に述べていただきまして、次回



この委員会としてどのような答申を持っていくのかというようなまとめに近づけていきたいと考えております。

（大石委員長）今後のスケジュールも併せて言っていただいで、今日どのあたりまで行くというところまで言っていただけるとありがたいです。

（事務局 鳥飼）本日は先ほど申し上げました通り、それぞれのお立場からの給食に対する考え方や思いを述べていただきたいということでございます。次回の会議につきましては、いただきましたご意見をまとめましてそれを文書化いたしまして、皆様にご提示させていただきまして答申の形に近づけたと考えております。その次の会では、答申文というような形でたたき台を作らせていただきまして、皆様にご審議いただき、最終会ではその文書をもって答申とさせていただくというような決議をいただきたいという形で考えております。

（古田委員）すみません、感想とご意見をよろしいでしょうか。僕は市民の方の意見等を見て、当初は給食に対して、特に60代の方のことを考えると弁当を一生懸命作られた世代だと思うのですが、逆の意見をお持ちだと考えておりました。それでもやはり、給食の方がいいと答え方をされているのは僕にとっては非常に温かく見ていただいているのかなと思いました。

ここからは意見ですが、大きく見て、やはり保護者の方の思い、そして市民の思い、中学生の思いと考えていくと、私は小学校の教師ですが、子どもの中に給食で栄養をとっているというか、唯一給食が食事という子どもも数名います。朝何も食べていなくて、昼給食を食べる、というように貧困の問題を加味して考えていく必要があると考えています。最近、貧困の問題が大きくクローズアップされているところなのですが、そういったことを考えていった時に、中学校の先生方はゆとりが無くなって大変だと反対のご意見も多いのですが、子どもの育ちという部分で健康であったり、体力であったり一番栄養をつけないといけない大事な時期にバランスのとれた給食は必要だなと個人的には考えています。貧困が非常に問題になっているところを含めて、未納の問題も絡んできて難しいことではありますが、子どもの健康面を第一に考えた時には給食の有難さというのは大事ではないのかなと思います。以上です。

（大石委員長）ありがとうございます。

(百武副委員長) 前回の会議では中学校でも僅かですが、お昼に何も食べていない子がいましたというお話もありましたね。

(岡委員) いいですか。貧困の問題で、今何も食べていない子については必ず担任は把握しておりますし、状況は押さえています。いわゆる、経済的に厳しくて食べるものが無いという状況の子どもがいるかというのは、学校が一番よくわかっていると思います。

(大石委員長) 古田先生がおっしゃったように、健全に育っていく子供たちの発育を考えた時に昼食もどういった形でとったらいのかというのを考えていけないといけないのかなと考えておりますが、他の委員の方々はいかがでしょうか。石内先生は何かおありですか。

(石内委員) 保護者の方の、給食をしてほしいという意見や給食があれば栄養バランスがとれるんじゃないかという思いがあると思うのですが、給食だからこちらがいくら考えていても指導する立場の栄養士や学校の先生がいないと、子どもたちは好きなものだけを食べて嫌いなものは残すというようなことがあると思うので、給食をどのように実施するかということも考えていくのも必要だと思います。給食やランチサービスで特に重要と思うことに、食中毒が起こらないように衛生に特に注意することとありますが、小学校の施設で空調も無く高温多湿の中で調理員さんが作っている状況があるのに、それを改善していく目途が立っていない中で中学校の給食を安全にできるのかなという心配もあります。

(大石委員長) 給食という形で提供するのがいいのかどうかというのは、また議論が必要かと思いますが、衛生面や安心で安全なもの食べてもらいたいというご意見はたくさんあったのかなというふうに思います。

(百武副委員長) ただ、中学校での給食時間は弁当でも担任の先生が不在ということは無いですよ。

(古田委員) ありません。考えられません。

(椎葉委員) アンケートを見たら、やはり保護者や市民の方は栄養バランスの事を一番気にしてあると思います。弁当持参が多いというのは、パンと牛乳じゃ栄養バランスがとれないと思って親御さんが一生懸命弁当を作ってあ

るからだと思います。それで、給食にした方がよいと8割の方がそう言うてあるというのは、お弁当作りは負担になっているし、給食の方が栄養バランスがとれるし、それで自分も少し楽になるかなと思われて希望されているのかなと思います。ですから、アレルギーの問題もありますけれども、小学校では栄養士もちゃんとして教師に対してこの子のアレルギーがこうですといった形で今のところ事故もなくあっていますので、中学校の先生方は負担になることを気にしてあると思いますので、栄養士を配置したり、アレルギーを管理できるような体制を取られたら、栄養士の立場から言えば、完全給食が望ましいのかなと思います。

ランチサービスも、パンと牛乳に比べたら栄養はいいのですが、やはり中学生が摂らないといけない栄養量には至っていないですよ。それを踏まえて、今の子どもたちの栄養に対する知識を考えると、自分たちで何を食べるのかちゃんと選べるなら今の選択制でいいと思うのですが、やはり学校給食しながら食育を進めていく必要があるのかなと思います。

(岡委員) 食育というのは、これからの時代ものすごく大切なもので、それは給食だろうがお弁当だろうが推進していかなければならないということは間違いありません。ただ、誤解が無いようにしておかないといけないのは、例えばずっとパンだけを食べているわけではなく、毎日ご飯だからたまには嗜好を変えて食べてみたいというレベルだと私は思っています。ですから、確かに1食分パンを食べてみたいということが、栄養バランスが悪いからいけないと決めつけるのは、結論を急ぎすぎていると思います。

自分の意見も言っていていいですか。私は現状通りの選択方式というのが望ましいと思っています。ただし、申込みの仕方であったり、量の調整であったりといったランチサービスの利便性の向上を図るところが条件に付くと思います。理由は4点です。

1点目、26ページのグラフに示すように、子どもたちにとって見れば選択方式が望ましいというのが一つ。

2点目、保護者の意向は確かに高いパーセンテージを示していますが、前回調査と大きく変わりはないということなのです。言い換えれば、前回もこのパーセンテージの中で、例えば財政的な側面も踏まえながらランチサービスが始まったと思います。

3点目は、中学校の校長としての立場で発言をしますが、18ページ及び24ページに教師が示してある通りの事情がありますから、現在の選択方式で問題が無いのであれば、それを尊重したいと思います。

最後に4点目。11ページにある市民感情の中でも大きな割合を示してお

りますので、それを加味しても現状通りでいいのかなと思います。以上です。

(大石委員長) ありがとうございます。百武先生からは何かございますか。

(百武副委員長) 様々な思いが出ましたが、子どもに何を食べてほしいかということを考えるとお弁当でもいいんです。給食でも、ランチサービスでもですね。

(大石委員長) P T Aの立場からはいかがですか。

(大谷委員) P T Aとして言った方がいいですか。

(百武副委員長) 個人としての意見でも結構です。

(大谷委員) P T Aの立場というより、お話を聞いていると基本的に子どもさんよりもお母様方とお話をする機会が多いので、どうしてもここに出ているように建前は栄養のバランスがとれるから、本心はすこしでも自分が楽になるからというのが実際の内容だと思います。それは、私がお話をしている中で先日前回の時に給食の代わりではありません、あくまでも食育の一環ですからというお話をいただいておりましたので、そのことをお母様にお話をしたらやはり目がハッとされたということがありました。

なので、食育に関しては、小学校にしても中学校にしても委員会の中で保護者に食育の講師の方を招いてお話をさせていただく機会を設けているのですが、なかなかそれに対して思いが浸透していかないと思います。ですから、P T Aという立場からであれば、実施して欲しいという意向が強いのではないかなと思います。

ただ、客観的に一歩引いた所から見ると今回の一般市民の方々に対しての意見に関して、費用対効果という側面は特に一切示されていなかった中で、ある程度高い数値が給食実施に関して出てきています。

この間もたまたまなのですが、散髪行っていた時に隣の方がお店の方と「太宰府の中学校で給食が始まるみたいですよ」とお話をされてあったんですね。そのお店の方は卒業生のお母さまだったので、どちらかという小学校のようなイメージで「学校で給食をするとすると、相当な費用がかかるんじゃない」と話されていたんですね。もう片方の方は、年配の男性の方だったので、「必ずしも小学校のような形じゃなくても、センター方式みたいな形でも大丈夫なんじゃない」と話をされていましたが、このアンケートには費用

的な側面は特に無かったですよね。どちらにしても、費用というのは莫大な差が出てきますのでそれを市民の方にある一定示した時に給食に対してご理解がいただけるのかなというのは心配な部分があります。

どうしても、先ほどから出ているようにアレルギーの問題とか食中毒の問題とかは、自校方式でいけば少なくとも済みますけど、センター方式になるとその問題が4校一気に行ってしまう心配もありますし、給食費の未納に関しても公平感というのが小学校の中でもお話が出ていたんですね。どうしても、未納の方でも同じように給食が食べられるということに関しては、疑問をお持ちの方もいらっしゃるので実施をしていただくにしても、クリアしていかないといけない問題がいっぱいあるのではないかなと考えていますので、どちらの方向性かというと実施していただくというのは有難いというのはあるのですが、状況を全体的に見たときには、今のところ現状の選択方式というのが望ましいのではないのかなというのが私の考えです。

妻にも給食の事について話を聞くのですが、ランチサービスというのを全員に実施するというふうに方針を示すのも一つの方法ではないのかなと思います。

(百武副委員長) ランチサービスは一食おいくらでしたかね。

(事務局 鳥飼) 360円ですが、実際の負担は300円となっております。

(百武副委員長) パン代とそんなに変わらないですよ。

(事務局 鳥飼) そうですね。300円であれば、アンケートにもありましたがあまり変わらないくらいですね。

(大石委員長) 今日は皆さんにいろんなご意見を言っていただく場でいいと伺っていますので、皆さんが発言されたのを聞いてさらにご意見があれば言うていただければと思いますが。

(石内委員) 今の財政のことなどを考えた時に、今のランチサービスの栄養価であったり内容であったりと、質をもう少し上げて継続していくという考え方もあるのかなと考えました。昨年度に、太宰府小学校で大規模改修をする予定が流れて今はどこも大規模改修が進んでない状況なので、もしどこの小学校も改修ができるほど財政的に余裕がある状況が分かっていたら、中学校のセンターを作ったり、委託で調理をしてもらったりというような選択肢

も考えられると思うのですが、現在のような状況で子どもたちにもっと栄養バランスのとれたものを食べさせたいと思ったら、ランチサービスの質を上げる方がいいのかなと思っています。

(大石委員長) ありがとうございます。

(百武副委員長) ランチサービスを食べている子供の支持率はどのくらいありましたかね。私はランチサービスに関して意見を言おうと思うのですが、申し訳ないけど食べたことが無いから言いようがないですよね。一回食べに行っておけばよかったですね。

(事務局 鳥飼) 16 ページに 8 「ランチサービスの評価」ということで、真ん中にありますとおり「おいしい」というのがあったり、「量がちょうどいい」というのがあったりします。ただ、否定的なご意見としては「当日や前日に購入できるとよい」というご意見もございます。

(岡委員) よろしいですか。私が先ほど利便性と言ったのはこの辺を受けてなんですよね。市町によっては当日買えるところもありますよね。ですから、親御さんの「朝、急に作れなくなった」とか「具合が悪くなった」とかいうようなケースもあるかと思えますから、業者さんとのお話の中でその辺りの利便性を上げることと、確か今のランチサービスは少し大盛りができるんですよね。だから、特に中学生の男の方で食べる子はすごく食べるんですよ。大盛りを認めてもらえるというのは運動部に所属しているような食べ盛りの子からしたら、有難いシステムだと思います。

(百武副委員長) それは、割増料金ですか。

(岡委員) いえ、確か無料ですよ。ただ、反対に小学校と同じように残滓と言いますか、食べ残しが出てくるということもありますね。今では、小学校は絶対最後まで食べなさいという指導はしてないですよ。

(古田委員) 今はもうしてないですね。

(岡委員) 昔はもう、絶対食べなさいというのがありましたよね。時として、ランチサービスでも食べたくないというがあれば食べない、というのは少し心苦しいところがあります。先ほど言いました利便性の中に大盛りや少なめ

といったのはあるといいのかなと感じます。

アレルギーの問題は給食も一緒だと思いますが、とにかく気を付けておかないといけない問題で、前回も申し上げましたが自然教室のような宿泊行事で東中のように一学年80、90人しかいない学校でも4～6人は別メニューであったり、中身の差し替えであったりというのは必ず出てきます。教員にもエビやカニがダメという方が一人いますが。

(百武副委員長) 先生方も今多いですね。今は生活指導表をもらってあると思いますので、それを提出したら対応はされますよね。

(岡委員) アレルギー対応というのは給食でもランチサービスも一緒だと思います。ただ、ランチサービスの場合は頼まなければいいという選択肢ができるのは大きいですね。

(百武副委員長) 突っ込んで話を聞くようですが、ランチサービスというのは何社か競合して決めたのですか。今作っている業者さんですね。

(事務局 鳥飼) 3、4社の中から選んだということです。

(百武副委員長) そうですか。これは毎年選考ですか。

(事務局 鳥飼) いえ、契約は毎年更新ですが、安価で引き受けてくださっていますので選考はしていません。

(椎葉委員) ランチサービスのことよく分からないのですが、申し訳ないけどあまりいいイメージがなくて、ランチサービスって温かくしてありますよね。あれは、一回冷やしてあるのですか。もしくは、出来たてをそのまま保温されるのですか。

(事務局 鳥飼) 出来たてを保温カートという入れ物に入れております。

(椎葉委員) 普通、保温は美味しくないという思いがあって、出来たてを食べさせてあげたいという気持ちがあります。やはり、できたご飯をずっと保温していたら味が落ちますよね。だから、申し訳ないのですがおいしくないのではないかという先入観があります。このアンケートでランチサービスの評価をしているのも76人しかいませんよね。実際、おいしいと評価してい

るのは 57.9%とはありますが、人数にすると 40 人と少くらいではないですかね。ランチサービスを一回試食させていただきたいと思っているのですが、どうしても美味しいのかなというのが頭にあります。

(岡委員) 基本的にそのご意見は正しくて、出来たてと少し保温したものとを比べたらやはり出来たての方が美味しいのは普通のことではないですか。

(百武副委員長) 作って冷ましてまた保温するというような春日市さんのやり方もありますよね。飛行機の機内食と同じような形ですね。ただ、こればかりは子どもそれぞれの嗜好の問題だから何とも言えません。機会があれば、是非試食会をしていただきたいと思います。でないと、はっきり言って私たちも意見の出しようがないんですよ。

(岡委員) これは私が言うことじゃないかもしれませんが、ちゃんと試食会はあっているのですよ。事務局から説明した方がいいですね。

(事務局 鳥飼) P T A 役員の皆様に対しまして、P R というところで試食会を実施させていただいております。もし、ご希望であれば・・・

(百武副委員長) ご希望というより、例えばこのランチサービスを継続していくとなったら、その根拠となってこれを認めるに足る理由というのが私共に必要ではないですか。そのような気がしませんか。無責任に実態を知らないまま、「はい、そのままランチサービスを継続します」と言えるのかなと考えています。

(事務局 鳥飼) 皆様に食べていただきたいという気持ちは十分にありますが、実施するにあたってこの会議の場となると、ましてや 8 食を別で作るとなると、時間のご都合が合いませんよね。

(岡委員) 数が増えたら、確か少しお安くなるというのも想定できますよね。

(事務局 鳥飼) そのあたりは、業者さんとの打ち合わせによってくると思いますが、期待できると思います。

お昼であれば、市役所にも持ってきていただいていますので数をご用意することは可能なのですが、ご都合が合うかどうかですよね。例えば、全員でなくてもご都合がいい日に来ていただいて、ということも考えられるかと思



うのですが。

（百武副委員長）やはり、一度は試食をしておくべきだと思います。

（大石委員長）ランチサービスについての話がずっと続いているのですが、ランチサービスでもう少し利便性を上げるであったり、中身を検討するであったりということではいろんな設備等の面で対応できないことをしていくという案は確かに一つあるのかなと私も思います。その中で、先ほどもお話であったように中学校は今栄養教諭の先生の配置がございませんので、その辺りも人的な手当等が可能であれば、入っていただいてアレルギーの対応ですとか、子どもたちの嗜好の問題といった食育の部分で対応していくというのは学校給食に代わってするものの一つになるのかなと思います。

（百武副委員長）献立作成にあたっては教育委員会としてはどなたかが代表で入られたりするのですか。

（事務局 鳥飼）管理栄養士の梅田という者がおります。

（百武副委員長）入っておられるのですね。責任が重いですね。

（大石委員長）今日皆様方にいろいろと言っていたいただいたご意見が答申をまとめていく土台となりますので、ご意見をたくさん言っていただく方がいいと思いますけれども。もう少し言っておきたいというところがありましたら、一言でもどうぞ。石内先生は何かありますか。

（石内委員）給食を実施していない中学校への栄養教諭の配置というのは、実際のところ可能なのかなと思います。もしそれができるのであれば中学生に食育のような指導をしながらランチサービスの中でアレルギーの対応を考えていくというような可能性も出てくるのかなと思います。

（百武副委員長）ランチサービスの注文の変更等のシステムの改善は若干の可能性の余地はありそうですか。

（事務局 鳥飼）注文の期間を縮めるといったことですかね。その点は、現在の業者さんとであれば難しいところであると思いますけれども、業者さんも様々でしょうから、その他の業者さんとも協議をしてみてその辺りが可能

であれば縮めていけると思います。

(岡委員) いいですか。今食育の話が出ましたが、これは本当に大切な話で、例えば中学校でも、と言っていいと思いますが年間計画を作ってどのように指導していくかとか学校全体として総合的にどうやっていくかとか計画として出ているところです。主としてあるのはやはり、家庭科の授業がございまずのでその辺で「弁当の日」として自分でカロリーやエネルギーを考えながら弁当を作る日を決める等、保健主事という立場の者もいますからそういった面からも進めていけないといけないことであると捉えています。

もう一つは、これは私が言うよりも皆さんがご存知だと思いますが、文科省の動きとしてはチーム学校という言葉があって、OECDの調査だと思いますが、日本の学校というのはいわゆる国語とか数学とかの教科を教える先生が多くて、その他のSSWであったり、栄養士であったりの割合がすごく低いんですね。それをもう少し上げて、チーム学校としていきましようということを文科省が出していますよね。財務省はダメと言っているみたいですが、そういうところを受けながら市としてもできるところを進めていくのがよろしいかと思います。反対に、専門の方に我々はよく相談をします。

いいですか。今日は結論を出す会ではないので、それぞれ意見が出たからそれでいいと思います。

(大石委員長) 一つ発言させていただきたいことがありまして、前のアンケート調査には食育基本法が制定されていなかったと思うのですが、平成17年に食育基本法が制定されて食育推進基本計画とかも5年ごとに改定がされていて、今回この春も第3次というのが出ておりますけれども、子どもたちを健全に育てていくという観点からも長く生涯にわたって健康でいるということを考えても、やはり小学生・中学生に対しての食育というのはとても大事になってくることなので、太宰府は食育推進計画はあるのですかと一度伺ったことがあるのですが、まだ策定ができていないということで、今日は会議に来る前に内閣府のホームページを見たんですが、福岡県で策定できているところがまだ30%台だったんですね。なので、今回は中学生の昼食のことをということで検討をしておりますけれども、そういったことも片一方で考えていく必要があるのではないのかなと感じましたので申し上げておきたいと思います。

委員の皆様のご意見が出尽くしたということであれば、今日はこのあたりでよろしいですか。

(一同) はい。

(大石委員長) レジュメには次回の予定の欄があるのですが、どうされますか。

(事務局 鳥飼) できましたら、6月の下旬から7月の上旬あたりでいかがでしょうか。

(百武副委員長) それまでに答申案ができるのですかね。

(事務局 鳥飼) そうですね。文書としてそういう形にするのかそれとも今回頂いたご意見を箇条書きして委員会としての方向性をまとめ上げることでいかがかと思っているのですが。

(百武副委員長) 具体的にはいつ頃ですか。

(事務局 鳥飼) 7月の4日の週はいかがでしょうか。

(大石委員長) ご都合の悪い日にちがございましたら仰って下さい。

(事務局 森木) 会議の開始時間につきましても、できれば18時からにさせていただきますと思います。

(百武副委員長) お願いします。大谷委員さんは、18時からでも大丈夫ですか。

(大谷委員) おそらくそこ辺りは仕事の都合で、参院選がありまして期日前投票期間中になるかと思しますので、まだ日程は決まってははいないですが厳しいかと思えます。選挙日が確定していないので、おそらく7月10日くらいではないかなと思えますが。

(事務局 鳥飼) 1週間前でも状況は変わらないですよ。

(大谷委員) 今のところの予定で、7月10日がいけば21日告示で、23日から期日前投票になって、それは夜8時までやっていますのでその期間は厳しいです。

(事務局 鳥飼) 一週後はいかがでしょうか。11日の週ですね。

(岡委員) 私は11、12日以外であれば大丈夫です。

(百武副委員長) 14、15日が厳しいですね。

(事務局 鳥飼) 13日はいかがでしょうか。

(一同) 大丈夫です。

(事務局 鳥飼) では、7月13日ということで決めさせていただいてよろしいでしょうか。お時間は今回と同じ18時からでよろしいですか。

(一同) はい。

(事務局 鳥飼) 会場はまた後日文書でお知らせいたします。

(大石委員長) そうしましたら、次回また7月に会議ということですのでどうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。お疲れ様でした。